

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2021年8月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2021年8月13日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.69



毎日猛暑が続いておりますが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、6月5日古賀政男音楽博物館「けやきホール」でのコンサートにはコロナ禍の中、多くの方々にご参加いただき誠にありがとうございました。無事何事もなく終了いたしました。

東京はコロナの感染者が増え続けており、7月30日には緊急事態宣言を7月12日から8月22日までとされていましたが、8月31日までと延長されました。皆様お気をつけてお過ごしください。

当会のコンサートは9月25日ヤマザキパン LLC ホールにて開催の運びとなりました。

出演、水野佐知香(ヴァイオリン)、三宅美子(ハープ)、荒井章乃(ヴァイオリン) ゲスト、崎元讓(ハーモニカ)の編成です。

ご多忙中とは存じますが、ご来場いただければ幸いです  
なお、今年最後のコンサートは12月18日土曜日、午後2時開演、新宿区立牛込笹笥区民ホールで開催いたします。

今後とも純正律音楽研究会をよろしく願い申し上げます。

## 異次元の世界体験

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

また、東京に緊急事態宣言が出て過ごしにくい日々が続いています。  
東京オリンピックも始まりました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？

東京オリンピックは、無観客で始まりましたが、たくさんのドラマがありたくさんの刺激を受けている毎日です。

コンサートも戻りつつあります。お客様を減らしながらも、音楽祭、コンクール、演奏会が始まっています。先日は久しぶりにサントリーホールへ行き徳永二男先生の楽壇 55 周年記念のコンサート、お弟子さんたち著名な音楽家の方たちに囲まれ、素晴らしいコンサートでした。当日は、コルンゴールドとベートーベンの協奏曲を弾かれましたが、75 歳になられてもまだ新しいコンチェルトに挑戦され、本当に感動でした。聴かせていただいて本当によかった。

さて、異次元の長崎ツアーに行ってきました。

まずお伺いしたのが、自給自足というか、山を買い、ご自身で山を切り開いて、4 トントラックのコンテナを改造して自宅にしたり、ご自身で露天風呂を作ったり、自然と共に生活をされ、台所のある家屋には蜂も住み、蜂が柱を食べてボロボロになっていたり、ピザ窯をご自身で作られたり、圧巻のことばかり。メニューの一つに、焼きそばがありました。木、炭を燃やしてその上の大きな鉄板で山盛りのお肉、お野菜を炒め、その後におそば、直火での焼きそばの美味しいこと！びっくりです。虫に刺されたら、ドクダミの花、葉を焼酎につけたものをつけるし、とにかく自然と共存、そして、「この場所は全て手作りで、捨てられたもの、いらなくなったものを再利用しています。ここでは皆さんが主役です。皆さんと協力しあって作り上げてください。失敗してもいいんです。笑って「大丈夫！どうにかなる」と言いながら楽しい時を過ごしましょう。ここで何かを感じてもらったら幸せです。優しい風・木漏れ日・鳥虫の鳴き声・人の温かさ・優しさ・・・みんなちがってみんないい」と長助さん♥そしてここで出会った、インスピレーションでメッセージを書にしたためてくださった西山先生！とても元気になりました。名刺もお願いしてきました。

あくる日は本命の「あんでるせん」に行ってきました。

話には聞いていましたが、行ってびっくり見てびっくり食後にショーが始まるのですが、今日来る人のお名前が全てわかっている（事前にお名前を伝えていません。予約のため代表の方のみお名前を伝えていますが）まずは、私たちが出した一万円、千円札を何も無い空間で自在に動かしたり、斜めにぴーんと立たせたり、瓶の中に入れたネジを自在に動かしたり 10 円玉、5 円玉などのコインを小さくしたり大きくしたり、お札の中にコインを入れてみたり、小口の瓶の中に入れたり。友人達の名前、漢字もあてたり、私の主人の名前を当てて漢字もあてたり、キュービックを 3 秒で、同じ色にしたり、指名された方に絵を描いてください！と絵をかきました、全く別のところから出てきた、マスターが当日 7:30 に書いた絵と全く同じ、書かれた方の名前も書いてありました。と

にかく異次元の世界を体験してきました。

過去形でなんでも考えた方が良い結果が出るそうです。

「コンサート上手くいった！私の人生、素敵だった！幸せだった！楽しかった！  
愛にあふれていた！」…

これからか楽しみです

## 自主制作 DVD 予約開始

NPO 法人 純正律音楽研究会 理事  
ハープ奏者 三宅美子

「夕べに」のタイトルで、自主制作 DVD と CD が 8 月末か 9 月には発売できそうです♪

昨年 9 月の純正律音楽コンサートにゲストとしてハーモニカの崎元譲さんをお招きしていましたが、残念ながら中止になりました。

崎元さんは玉木宏樹さんともスタジオレコーディングなど何度も共演しお酒を飲む機会も多かったそうで、映画「男はつらいよ」でのハーモニカも弾いておられるハーモニカの第一人者です。現在のスタジオ仕事ではハープやハーモニカもアコーディオンなど殆どが生楽器では収録されないような状態ですが、スタジオミュージシャンとして今でも指名されて活躍されている稀有な演奏家です。

私とはもう 30 年以上にわたりデュオを組んでいくつものコンサートをしてきましたが、毎回多くの事を学ばせてもらう一里塚のような師匠です。

嬉しい事に 9 月 25 日に市川 LLC ホールでのコンサートで共演が叶いますが、まだ先の予定が立たなかった今年始め、楽しみにしていたお客様にコンサートの雰囲気を見て頂ければと、「コンサートの風景 ハーモニカの巨匠 崎元譲さんを迎えて」として演奏予定候補曲を収録し YouTube 配信しました。

お馴染みの「七つの子」「宵待草」はフルートとピアノのために編曲されておりハープ用に少し手を入れました。玉木宏樹さん編曲の「私を泣かせて下さい」は水野佐知香さんと弾いた時にハーモニカとも良いなと思いました。

ハーモニカとハープの為に書かれた「ジャスミン」はイギリスの作曲家クリス・ハッゼルさんが崎元さんの英国での先生、トミー・ライリーがレコーディングしていたのを書き起こした譜面で何度か演奏してきましたが、今回 DVD と CD にするために著作権使用の許可を得なければならず、イギリスの出版社や SNS を探して探して、やっと本人に辿り着き、快く承諾をもらう事が出来ました。

日常で英語を話すことも書くこともほとんどありませんので、中学生レベルの英語でバクバク心配しながらメッセージを送りました。1 通目では説明不足かと翌日ほぼ半日かけて状況説明を送りました。翌日からの 1 日 1 日が長かったです。

返事が無かったり別人だったりダメと言われてたり、何かとマイナス思考になりがちでしたが、お散歩途中の神社やお寺に教会と、何処でもお詣りお願いし

て待ちました。絶対大丈夫！と念仏を唱えじっと待つこと2日間。早朝目覚めてすぐ開いたSNSにChrisさんからのメッセージが来ていました！

メッセージには、とても昔に書いた曲でもう手元には楽譜が無いのに見つけて演奏してくれてありがとう、と書かれていました。きっとこの2日間自宅やオフィスの楽譜棚を探しまくったのでしょう。

「ジャスミン」というタイトルは娘の名前だと、ちょうど作曲当時まだ5~6歳だった可愛いお嬢さんの写真が添付されていました。英国風のおそらく薄いピンク色か空色の小花模様？のワンピースを着たジャスミンちゃん。古いアルバムの写真を見ながら作曲した頃の思い出に浸ったそうです。メールのやり取りを毎日しながら改めて楽譜を読むとどんどんイメージが湧いてきました。オリジナルの編成(ハーモニカ、ハープ、ピアノ)のスコアを作り直すとのことで楽しみです。

DVDのタイトル「夕べに」は私たち共通の友人で作曲家編曲家で売れっ子ハーピストの朝川朋之さんの曲です。NHKの趣味百科 安野光雅風景画を描くという番組で弾いた曲で後に私たちの為にハーモニカとハープに書き直してくださいました。ハープが弾ける作曲家のうえに大変几帳面な性格ですから、指使い、ペダルの記号などなど、実に細かく指定されていました。この曲も当初は技術的な難しさに囚われてしまい、なかなか自分のものにならず……年月を経て漸く風景がはっきりして、改めていい曲だと思います。

これらを収録した時にはDVDにする事は念頭にありませんでしたがYouTubeに使えるような江の島で撮影した動画や写真を重ねてつくるうちに、心の奥底にあった望みが大きくなりました。「夕べに」は配信していなかったのでDVDにしよう！という事になり、自主制作を始めました。

録音録画の編曲は矢澤弘章さんをお願いしていますが、著作権のことやプレス会社やデザイナーさんとの交渉は不慣れで大変でした。チラシもなんとか自分で作り印刷に出しました。予約の受付や返信、追加ソロ曲の海外著作権含めた使用申請と支払い！予約先への発送などまだまだ続きますが、結構頑張れる自分へのご褒美は世界のビールです♪

なんとなく始めたYouTube配信ですが、とみ子夫人に誘われて始めた俳句と進化したスマホと買ったカメラのおかげでphoto by yoshikoを写真動画に入れたり、新しい企画を考えたり。クラシック、純正律、それ以外もボーダーレスでとっても楽しんでいます。新シリーズ「あなたも今日からハーピスト？」ではエア・ハープで弾いた気になっていただけます。チャンネル登録もどうぞよろしくお願い致します！「三宅美子ミネラルハープコレクション」です。

DVDとCDのご予約お申込みもよろしくお願い致します！

**ムッシュ黒木の純正律講座 第 68 時限目**  
**平均律普及の思想的背景について(57)**  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回、人文科学の研究がなければ、多くの書物が刊行されて書店の店頭に並ぶことがないようになるという話をした。

例えば、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』やブーレズ・パスカルの『パンセ』などは現在でも版を重ねている有名な作品であるが、これらは死後出版なのだ。つまり、作者の生前に作者がきちんと校正した原稿が世に出たわけではなく、死後に見つかった草稿を基に構成を決め誤字脱字などを修正し出版されているのである。そして、このような作業こそが人文学研究の基本なのだ。『銀河鉄道の夜』などは、岩波書店から 2007 年 4 月に出た第 80 刷改版ではそれまでの版に比べて、草稿の順序に違いがある。このような改変は長年の研究の成果に基づくものであるのだ。賢治の他の作品はもちろんのこと、手紙や日記、同時代の様々な資料を突き合わせ、賢治の思考を想像し再構成してみる作業である。作者自身が既にこの世に存在しない以上、賢治の思考を完全に正しい形で再現することは不可能だし、自分たちの解釈が 100%間違っていないことを証明することも不可能である。しかし、様々な資料を読み込み他の研究者と議論を重ねることによって、精度を上げていくことは可能だ。

著者の生前に刊行された作品に関しても、草稿と出版された版には当然違うがあるし、また刊行された書物だけを見ても何回も版を重ねているケースが多くがあるということに気をつけたい。この場合、後の版になるほど著者の意図を正しく反映しているとわけではない。当時の政権の圧力や関係者からの抗議で著者の意に反して部分的に削除して版を新たにしなければならぬケースがあるからである。また、夏目漱石のようにもともと旧仮名遣いで発表された作品の場合、必要に応じて現代仮名遣いに翻訳することもあるだろう。つまり、現時点において出版する版の稿を決定する際にも研究者の知見は必要不可欠なのだ。

また、新たな遺稿が見つかった場合、それが本物かどうかを判断しなければならないこともある。筆跡鑑定という手段もあるが、口述し親近者に書き取らせていた可能性もあるので、筆跡鑑定が絶対ではない。その場合、作家によって書き直しが多いか少ないかで判断をする場合もある。つまり、一回書いた原稿を後から何回も訂正を入れる人もいれば、ほとんど手を入れずほぼ一回で完成稿を仕上げるタイプの間もいる。なので、たくさん資料を当たり、作家ごとの癖を把握していくことは極めて重要な研究行為なのだ。

文章だけではなく、音楽の楽譜でも同様の作業が必要である。作曲家は自ら筆を手に取り楽譜を書くわけだが、コピーがない時代ではそれを写して人に渡す場合には手で書くしかない。中には清書を他人に頼む作曲家もいただろう。となると、当然写し間違いもあるだろうし、そもそも作曲家自体の書き間違いもある。また、例えば、バッハの時代にはスラーや強弱記号などを付ける習慣もなかった。このような状況では、残っている楽譜の間で細かい違いが多少なりともあることになる。それをどの版が正しいかを確定し、シャープやフラットなどの変化記号の付け間違いを修正するという作業が必要になる。作曲家自身の自筆譜が残っている場合はそれが大いに参考になるが、それが失われてい

れば作業は複雑なものとなる。更に、場合によっては自筆譜には記されていないスラーや強弱記号を付け加えて演奏しやすい形にして出版することになる。いずれにせよ、研究によって楽譜が確定されなければ、名曲の演奏も困難となるし、CDの録音も出来なくなってしまう。

普段、何気なく購入している書籍やCDが人々の手に届くまでには、研究者による仕事があることがご理解いただけたであろうか？

## ヴァイオリンの贋作、その2

純正律音楽研究会 初代代表  
玉木宏樹遺作

### \*ヴァイオリンのいい音の正体

私は中学時代、多分フランス製といわれた無名のヴァイオリンを16万円で買ってもらい、芸大の受験もその楽器で受けました。こんな安物楽器で芸大を受ける学生はいません。このヴァイオリンがいい音をしているのかどうかには全くお構いなく、私は自由に延び延びと弾きまくり、またその楽器は私の体にうまくフィットして、とても弾きやすい存在でした。大学時代に50万円の楽器をもう一台買い、卒業して何年かたって200万くらいのイタリア楽器を買いましたが、スタジオ仕事などはずっと16万円の楽器で通しました。ソロの録音で、2台持って行って、ディレクター、ミキサーたちにどっちの楽器がいいかと訊くと、必ず16万円の方でした。

私は昔、ソロ・スタジオ・プレイヤーとしてヴァイオリンを弾いていたとき、いろんな特殊奏法を要求されました。ジャズ・タンゴ・ロック・演歌とか何でもやりましたが中でも評判のよかったのはジプシーヴァイオリンで、時々エロチック・シーンのソロなんかもやらされましたが特に色っぽく聞こえるように弾くのは大得意でした。それを聴いていたヴァイオリン仲間からはそのヴァイオリン、いくらなんだい？と直接値段を訊いてくる失礼な輩もいました。そのヴァイオリンを売ってくれ、値段は高くてもいいから、と言います。

「なぜ、こんなヴァイオリンが欲しいんだい？」

「だって、すごく甘くてエロっぽい音が出るじゃないか」

「そうかい、貸してやるから奏してみな」

貸してやると、喜んでその人は弾きますが、全くサマにはなりません。

「おかしいなあ、お前が弾くとあんなにいい音がするのに」

「じゃ、お前のヴァイオリン、ちょっと貸してみな」といって彼のヴァイオリンを弾きます。いつも硬い音ばかり出している楽器ですから、そううまくは行きませんが、それでもエロチックな雰囲気は出ます。彼はキョトンとしてあつけにとられています。

「返せよ」と言って私は自分の楽器をとり返します。彼の楽器は少なくとも200万円以上、私のは16万円なのですけどね。彼を含め、プロの90%のヴァイオリニストは、楽器が音を出していると勘違いしています。音を出すのはあくまでプレイヤー。そのプレイヤーが望む音に近い音を出してくれるかどうか

いい楽器かどうかの基準のはずです。プレイヤー自身が自分の理想としての音の世界を持っていないとどんな高い楽器を弾いても悲惨な結果しか出ません。大した腕前でもないプレイヤーが高い楽器を買うと、それだけで満足して、音が出るものと思いこんでしまい、なでるような弾き方しかしないから、いい音が出るわけがありません。どんな高い楽器だろうと、自分流に調教できる腕がない限り、猫に小判です。

石井宏「誰がヴァイオリンを殺したか」(新潮社)は名著で、いろいろと示唆に富む発言があります。

それではクレモナーのヴァイオリンの値段とは一体なんの値段なのか。「そのヴァイオリンの作者の説明に始まって、今日に至るまで、どこのだれの手を経てきたかという故事来歴の物語のひとくさりに、そのヴァイオリンの構造や材質、塗料などの特徴や修理歴、現在の保存状態など」を説明するのである。その説明の仕方について何か思い当たることはないであろうか。そう、その説明というのは、サザビーやクリスティーなどのオークションのカタログに書いてある品物の説明と同じなのである。

といったわけで、ヴァイオリンの古い“名器”たちは楽器ではなく骨董品として取引されているのである(日本国税関においてもクレモナーのヴァイオリンは楽器ではなく骨董品=古美術品という分類に入れられている。楽器だと物品税が課せられるが、骨董品は非課税である。従って何億円のストラディヴァリを輸入しようと物品税は非課税である)。その値段は楽器としての値段ではなく、骨董品としての値段なのである。

実に身も蓋もない書き方ですが、私はまさにこの通りだと思います。ヴァイオリンというのは実に厄介な楽器で実はプレイヤー本人がいい楽器かどうか分からないのです。プレイヤー本人に分かるのは自分の体にフィットしているか弾きやすいかどうかで、まず弾き易くなければいい音も大きい音も出ません。しかし本人が納得した所で、2000人も入るコンサート・ホールの後ろの席でどう聞こえるかは本人には全く分からないのです。客観的に判断するには、自分と全く同じ技量で音の好みも同じの、自分の分身のような人に弾いてもらってホールのあらゆる場所、角度で聞いてみないことには不可能でしょう。

さて、ではどうしてイタリアの名器はなぜ高いのか、中でもストラドが一番高いという値づけの根拠はどこにあるのでしょうか。楽器の鑑定と鑑定書にかけては世界一の権威あるのがロンドンのヒル商会です。ここでもう一度、石井宏氏からの引用をお読み下さい。

では、だれがその値付けをしたのか。そこで話はロンドンのヒル一族に戻る。クレモナーの銘記の修理屋、輸入屋としてスタートした彼らのビジネスが四代受け継がれるうちに、この商会の持つ商品知識と工芸的ノウハウは膨大なものにふくれ上がった。彼らはそこから出発して、クレモナーの名器、特に数あるストラディヴァリのひとつひとつの楽器の履歴、細工の精度、保存の状態、特長などを徹底的に調べ上げ、それらの楽器の一覧表を作り、それらにランキングを与えた。もしその膨大で精緻な作業を彼らの功の部分とするならば、その体系づけの作業の中で、音楽的な評価が関与する部分が能う限り少なく、もっぱら美術的、工芸的価値に偏してい

るのは負の部分である。それは彼らが音楽家ではなく、美術修理工であり販売業者であった以上、仕方のないことであったが、また別の言い方をすれば“音の善し悪し”などというコンセプトは極めて主観的なもので、規準の立てようもないものであるから、とてもそれを物差しに使うわけにはいかない。従ってヒルの作った即物的な価格体系はそれなりに妥当なものである。しかし、彼らの作った価格体系はのちの音楽家やしろろとの客筋などを大いに錯覚させることになった。すなわち、ストラディヴァリは音楽的にすぐれた楽器であるから高いのだという誤った信仰がそこから生まれてきたからである。ストラディヴァリはなぜ高いのか。それは二度と生産されることのない美術骨董品だから、というのがその答えであって「音が良いから」ではないのに、人々はそう思いこんだ。

さて、ヴァイオリンの音色というのは楽器個有の個性ではなく、プレイヤーの個性だということを端的に表現している所があります。結構有名な女性ヴァイオリニストが大枚はたいてストラディヴァリを買いました。その感想をまた引用です。

「私、ストラディヴァリなら、私が弾いてもさぞかしい音がしてくれるだろうと思って買いました。最初はなるほどと思うような気がしました。それからしばらくして、ふと気がついてみると、以前から知っている私の音がしているんですね。ひとりの弾き手が長く同じ楽器を弾いていると、その楽器はその弾き手の音になってしまうという話を聞きましたけれども、私の場合もそれなんでしょうか。それだったら高いお金を出してストラディヴァリを買うことはなかったんです。前の楽器でも私の音がしていましたから。でも、ストラディヴァリでも私の音は変わらなかったんです。」

カルロ・ベルゴンツィという有名な名器製作者の子孫のベルゴンツィ氏がクレモナにいます。石井宏氏は本人に会い、インタビューした結果を書いています。

あるとき、筆者はこのベルゴンツィ氏に対面する機会があった。話の中で私は「何人ものあなたの楽器の愛好家が日本にいるが、とりわけ、あなたの楽器の音色が気に入っているという人がいます、あなたご自身は自分の楽器の音色の特徴について作業としてどういうご意見をお持ちですか」という意味のことをたずねた。すると彼は即座にこう言い放った。

「あらゆるヴァイオリンには、個有の音色なんてありませんよ。ヴァイオリンから聞こえてくる音というのは、すべてその弾き手の音です。別の人が弾けば別の音がします」

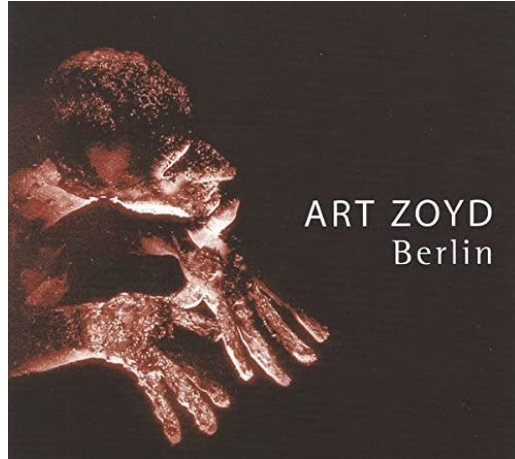
(続く)



CD レビュー 純正茶寮

『Berlin』 (1987)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Berlin』 (1987)

Art Zoyd

レーベル : Birdsong, Hayabusa Landings, Cryonic Inc.

以前紹介したことのあるベルギーの Univers Zero と並べて論じられることの多いフランスの Art Zoyd が 1987 年に発表した名盤『Berlin』を紹介したい。Univers Zero と Art Zoyd は共にイギリスの Henry Cow を中心に行われた Rock in Opposition という前衛ロック運動に参加したことで有名である。ヴァイオリンなどの擦弦楽器や木管金管楽器といったクラシックに使われる楽器を導入し、変拍子を多用する音楽スタイルで知られる。

その中でも、Univers Zero と Art Zoyd の音楽的特徴は、廃墟や深い森の闇を思わせるサウンドを醸し出すことにある。故に、日本のファンの間ではチェンバーロックあるいは暗黒室内楽団の名称を与えられ、一部の熱狂的な支持を得ている。

これらの音楽を知った時、メロディを取る擦弦楽器や木管金管楽器が、決してピアノやエレキ楽器の平均律にはない響きを奏でているのを耳にして、一気に魅了されたことを思い出す。特に、Art Zoyd は金管の響きと作曲担当の一人 ティエリー・ザボアツェフ (Thierry Zaboitzeff) のチェロの調べが美しい。

ただ、Univers Zero と比べた場合、楽曲の複雑さに関しては一步譲らざるを得ない印象は否めない。その代わりに Art Zoyd は演劇、映画や舞踏作品など他の諸芸術を積極的に援用している。例えば、Art Zoyd はバレエの巨匠ローラン・ブティから依頼されてその公演『天国と地獄の婚姻 Le mariage du ciel et de l'enfer』(1985) のための音楽を発表したこともある。換言すれば、Univers Zero がより純音楽的要素で勝負しているのに対し、Art Zoyd はより標題音楽的だと言えよう。

このアルバムはザボアツェフの作曲している「A Drum, a Drum」などの曲でシェークスピアの戯曲『マクベス』の台詞が引用されている。

純正律音楽研究会は和音のハモリに焦点を当てて活動をしてきた。前回の畏友 James Mac Gaw の作品の紹介では言葉の響きの周波数が音楽に及ぼす効果について言及した。対して、ここでは言葉の意味が音楽に及ぼす効果について俎上にあげてみたい。『マクベス』の台詞が織りなす意味世界が音楽外要素なのか、それともハモリ、リズムやメロディと並んで音楽の重要な音楽内要素なのか、ということである。私としては歌詞や台詞の意味は音楽内要素として極めて重大な役割を果たしていると考えている。

## 宗教から見た大国インドの背景と現状（2）

純正律音楽研究会 正会員  
正会員 弁護士 齋藤昌男

### 目次

- 第1. 緒論
- 第2. インドの概要
- 第3. インドの宗教
- 第4. カースト制度
- 第5. ヒンドゥー教の特徴
- 第6. ヒンドゥー教の聖典
- 第7. ヒンドゥー教の神々  
（以上は前回（1）で済み）
- 第8. ヒンドゥー教の教理
- 第9. インド思想の流れ
- 第10. ジャイナ教
- 第11. アーjeeヴィカ教
- 第12. シク教
- 第13. 石窟寺院（世界遺産）
- 第14. ヒンドゥー教系新宗教
  - 1. サティヤ・サイ・ババ協会
  - 2. クリシュナ意識国際協会
  - 3. ラジニーシ運動
  - 4. シャイヴァ・シッターンタ教会
  - 5. 超越瞑想
  - 6. ラーマクリシュナミッションと高弟ヴィヴェーカーナンダの思想

### 第8. ヒンドゥー教の教理

#### 1. 四住期

四住期（アーシュラマ）とは、ヒンドゥー教独特の概念で、最終目標の解脱に向う人生を4つの住期に分けたものです。但し、四住期は、上位ヴァルナのバラモン、クシャトリア、ヴァイシャにのみ適用され、シュードラ及び女性には適用されません。

○受胎から入門式（8～12才）までは、四住期に入らず、この間は一人前

の人間とは見なされません。

(1) 学生期

ヒンドゥー教の男子たるものは、学生となって、聖なる伝統と聖典を学ぶこととされてきました。そこで、まず成人式を終えてから家庭に入るまでの時期に、ヴェーダを学習する大きな目的があります。

(2) 家住期

家の暮らしを営む時期であり、結婚して子供をもうけ、家長として経済活動に勤しむ時期であります。

(3) 林住期

世俗を離れて、森での生活に移行する時期であります。

(4) 遊行期

何も持たず、ただ乞食だけによって生きながら、魂の解放を求めて遍歴する時期であります。「ヒンドゥー教社会では、こういう遊行者は今なお高く評価され、特別の尊敬と支援を受けるにふさわしいとされている」(M・B・ワング著、山口泰司訳、ヒンドゥー教、154ページ) そうです。

さて、この住期はアーシュラマと呼ばれ、アーシュラマと前記の四姓(ヴァルナ)ごとに定められた責務や生活規定をダルマ(法乃至生き方の規範)といい、それを遵守することをも同じくダルマと称しています。このダルマにカーマ(性愛、優美)とアルタ(実利の追求)を加えたものを「トリ・ヴァルガ」と呼び、これらの三つをヒンドゥー教では人生の目標としています(山下博司・岡光信子共著「新版インドを知る事典」、東京堂出版発行、37ページ)。

2. 輪廻(りんね)・業(ごう)・解脱(げだつ)

輪廻とは、人間は、前世、現世、来世の三世にわたって死と再生をくり返す、というインド古来の考えで、サンスクリット語ではサンサーラ(samsara)という言葉であらわされています。これは「流れ」「まわり巡ること」の意味であります。

カルマ(karma)とは、行為を意味するサンスクリット語ですが、仏教用語では、「業」(ごう)と訳され、仏教では基礎的な概念であります。しかし、業、即ちカルマとは、仏教以前からインド思想一般に広く見られる概念です。ある行為は原因がなければ起こらず、また行った行為は何らかの結果を残します。輪廻と、このカルマの思想とが結びつくと、輪廻は善因善果、悪因悪果という因果の法則に支配されているとされます。従って、自分の行為は、悪行であれ善行であれ、今世でなければ来世、あるいは、そのまた先の生において応報を受けると言うのであります。

以上述べた様にヒンドゥー教では、人は死んでもまた、別の人間や動物などに生まれ変わるという輪廻の思想が信じられております。この無限に続く輪廻の輪から解放されることを解脱といいます。

解脱思想のもととなったのは、ヴェーダの一種であるウパニシャッドという紀元前500年ごろに書かれた200種類もの古い書物群であります。

あとあとに苦しむような罪を犯すことを「業を背負う」と言います。これは現世で悪い業(カルマ)を積むと、来世で報いを受けるという思想から来ています。

仏教もまた善因善果、悪因悪果、すなわち良いおこないは良い結果をもたらす、悪いおこないは悪い結果をもたらすという因果応報の原則を認めており、この因果の及ぶ範囲は現世にとどまらず、来世までに及ぶとされています。仏教では、修行を積んで知恵を磨き、迷い、煩惱、執着を捨て、いつさいの苦しみや束縛から、また輪廻からも解放された境地を涅槃（ねはん）と言ひ、悟りと同義に考えられることもあります。この涅槃は、サンスクリット語のニルバーナ、パーリ語のニッバーナを漢字に音訳した語であるそうです。

## 第9. インド思想のながれ

(春秋社発行、前田専學著「インド的思考」15ページ以下参照)

### 1. BC 2300年頃－BC 1800年頃

モヘンジョ・ダーロ (Mohenjodaro) 及びハラッパ (Harappā) を2大中心地としてインダス文明が栄えていました。最近では、インダス文明で使われていた文字の研究が盛んに行われていますが、解読にはいたっておらず、南インドに居住するドラヴィタ民族の祖先が使用したドラヴィタ語族に属するとの説が有力ですが、それ以上の事は分かっておりません。

### 2. 古代第1期 (BC 1200年－AD 120年)

紀元前1200年を中心に「リグ・ヴェーダ」が編纂され、紀元前500年頃までには主要なヴェーダが編纂され、バラモン教の根本聖典が整備されました。紀元前500年頃を中心に「ウパニシャッド (upanishad) 聖典群が成立しました。「ウパニシャッド」とは、元来は「近くの」(ウパ)「坐」(ニシャッド)あるいは侍坐(貴人や客などのそばにすわること)の意味でありましたが、転じて「秘密の教え」という様になり、さらには、その秘密の教えを述べる文献を意味するようになったそうです。そしてウパニシャッドの時代になると祭式や最高神への関心は薄れて、宇宙の根本原因としての非人格的な一元的原理を探求する様になりました。

### 3. 古代第2期 (AD 120年－AD 600年)

クシャーナ王朝(60年－200年)からグプタ王朝(320年－540年)にかけての時代であり、ヒンドゥー教を国教とするグプタ王朝において仏教の勢力は低下しました。そしてヒンドゥー教が勢力を伸長してきました。

ヴェーダの権威を認めない唯物論・仏教・ジャイナ教は非正統派とされ、その権威を認める学派は正統とされ、バラモン系統の体系としては、6つの代表的な学派が成立し、所謂6派哲学と言います。

#### (1) ミーマンサー学派

ヴェーダを正しく理解した上で行動すれば天界に生まれ変われると説きます。

#### (2) ヴェーダーンタ学派

最大の学派であり、後代に多くの学派に分かれますが、インド思想界の主派を形成し今日に至っております。ウパニシャッドの主題である宇宙の根本原理ブラフマン(梵)の研究を目指し、一元論を主張する学派です。梵我一如(ぼんがいちによ)を直観すれば、解脱に至れると説きます。

#### (3) サーンキヤ学派

宇宙の本質を一元的に論じるだけでは、この世を乱しているさまざま

な苦や悪の由来が説明出来ないとして、精神的原理と物質的原理の二元論で宇宙を説明しています。

(4) ヴァイシェンカ学派

こちらは自然哲学で、世界の構造を有限個の構成要素の組み合わせによって説明しようとしています。すなわち実体と属性と運動と、和合（属性と実体との結びつき）、無、欠如などの元素の組合せによって説明しようとしています。

(5) ヨーガ学派

最高神に心を集中するなどヨーガの実践によって、解脱をめざします。

(6) ニヤーヤ学派

インド個有の論理学を説いています。

4. 中世第1期（600年－1200年）

この時期にバクティ（bhakti, 信愛）を強調する有神論的な中世的宗教思想が発達しました。

この時代には、仏教とジャイナ教が、その基盤となっていた商業資本の没落とともに衰退しました。

ニヤーヤ学派と仏教によって論理学が精密化されました。

ヴェーダーンタ学派のシャンカラ（700年頃－750年頃）が不二一元論を唱導して、将来インド思想界の主流となっていく基礎を固めました。

仏教は独自性を失い1203年にイスラーム勢力によって消滅しました。

5. 中世第2期（1200年－1800年）

イスラーム教のインド侵入は8世紀頃までさかのぼりますが、1206年にインドに初めてイスラーム王朝（奴隷王朝、1206年－1290年）がデリーに成立しました。15～16世紀になるとイスラーム教とヒンドゥー教の融合の傾向が顕著となりました。

ヴァッラバは純粋不二一元論の立場から現実世界を肯定し、ヒンドゥー教を世俗化しました。

ラーマナンド（1400頃－70頃）は男女の平等を唱え、カストを批判し、彼は上層階級と下層階級、あるいはヒンドゥー教とイスラーム教徒との間になんらの差別を設けませんでした。彼には12人のえり抜きの弟子がおり、その一人がカピール（1440年頃－1518年頃）で、彼はイスラーム教徒の職工であります。彼の教えの要点は、「神は根本において同一である。神を礼拝するものは、精神において、真理において、崇拝すべきである。」彼の名は、今なお北部ヒンドゥスタンの多くの家庭において膾炙されているそうです。

カピールの影響下でグル・ナーナク（1469年－1539年）は、ヒンドゥー教でもイスラーム教でもない立場でシク教を創始しました。

第10. ジャイナ教 Jainism

ジャイナ教徒は、インドの宗教人口としては約400万人（全人口の0.4パーセント）ですが、ジャイナ教徒は、殆んどが商業関係の職業に従事しており、インド社会でのジャイナ教徒は結束も固く、商才にたけたジャイナ商人はつとに有名であります。

これは何処から来るのでしょうか。ジャイナ教の出家修行者は、肉食や殺傷を禁じ、ジャイナ教の出家修行者は生き物を殺すのを避けるために最大限

の注意を払わなければならないとされています。飲み水を飲むときも顕微鏡で見なければ見えない様な微小な動物を殺さない様に濾過してから飲むことになっています。また呼吸の際に微生物を吸い込まないように、口を薄布でおおうことになっています。歩くときも、虫を踏みつけない様に、通路を注意深く掃きながら歩くとも言われております。

在家の信者も、徹底してこの非暴力主義（サンスクリット語ではアヒンサーとよばれております）に従うために、土を耕して土中の動物を殺すことを嫌って、農業に従事しません。従って、在家のジャイナ教徒は、商業か銀行業の様な仕事に就くのが習わしとなっています。

ジャイナ教の開祖は、マハービーラ（Mahavira）ですが、彼は紀元前540年頃の生まれとされており、彼は特権階級の家生まれ育ったにも拘らず、托鉢修道士の集団に加わって、サドゥー（Sadhu、遊行者）としての、聖地の巡礼、ヨガや瞑想を行い、食物の施しを求めたりして、彼は、今日の一部サドゥー集団に見られるように裸で歩きまわるようになりました。そして彼は次第に宗教指導者としての生き方を開始し、紀元前486年に亡くなりました。

4世紀に、ジャイナ教内部に分裂が起りました。一方は、全ての所有物が解脱の障害になるとして、衣服を含めた全ての所有物を放棄し、デイガンバラ（空衣派、あるいは裸行派）となりました。他方は、精神に関係があるのは、衣服よりも清浄性であるとして、シュヴァターンバラ（白衣派）になりました。

しかし、中世初期は、ジャイナ教が栄えた時期であります。シヴァ派やヴィシュヌ派のヒンドゥー教の復活によって、弱体化してゆくことになりました。

さて、アヒンサーの思想、即ち、非暴力主義乃至不殺生は、インド亜大陸では長い歴史を有しております。不殺生の思想は、紀元前3世紀にはすでにインド全体に広まっていたが、紀元前269年に王位についたインドの王アショカが仏教に入ったときに、不殺生は公式に支持されています。アショカ王は、軍事行動を大幅に減らし、シカ狩りなどの狩猟をやめて菜食主義者となりました。

ジャイナ教は、仏教以上に不殺生を重視してきた宗教であります。前述の如く、ジャイナ教の僧は、生き物を飲み込まないように、飲み水を濾過してから飲んでいきます。

アヒンサー（不殺生）は、ヒンドゥー教の教えの重要な徳目の一つですが、これをインド国外に広く知らしめたのは、マハトマ・ガンディー（1869年～1948年）です。

#### 第11. アージーヴィカ教

仏教やジャイナ教のほかに、バラモン教に反対した宗教として、アージーヴィカ教があります。マウリア朝のアショーカ王碑文に仏教、バラモン教、ジャイナ教と並んで、アージーヴィカ教のことが記されております。「アージーヴィカ」とは、「命のある限り」という意味です。運命が全てを決しているとする悲観的宿命論に立っており、厭世主義に立脚しており、「人間の努力は無駄である」と虚無主義を説いたこともあって、13世紀以後消滅しました。

## 第12. シク教 (Sikhism)

1. シクとは、「弟子、門弟」を意味するサンスクリット語のシシヤヤ (sishya) を語源とするパンジャビー語 (Punjabi) であります。ヒンドゥー教の多いインドでも、パンジャブ地方はシク教徒がほとんどで、現在、約2000万人 (うち約600万人が海外居住者) の信者がいるといわれています。

シク教の開祖グル・ナーナク (GuruNanak) は、1469年にインドの北部パンジャブ地方で生まれました。グル・ナーナクの生きた時代は、ヒンドゥー教とイスラム教のあいだに激しい抗争が続いた時代で、彼は、この二つの宗教の平和的共存を強く主張しました。ナーナクは、16才で結婚し、2人の息子をもっていますが、彼は家族を捨てて、約25年の間、旅を続け、宗教生活の本質について思索し、ある種の悟に至った様であります。ヒンドゥー教徒のなかには、俗世間から身をひき、苦行者すなわちサドーとして生きていく人が多くおります。彼自身の経験からして、そういう生き方は精神的・宗教的生き方として最善のものではないとして、家庭生活の枠内に生きながら、自分の人生を神にささげている人々を擁護しました。

当時のヒンドゥー教はカースト制度に見られるような社会階級体制に深く根をおろしていました。彼は、こうした制度の不公正さに目を向けて、万人の平等を説き、カースト制度に強く反対しました。さらに彼は、さまざまな宗教が宗教儀礼に重きをおいていることにも強く反対しました。

18世紀ムガル帝国が衰退期に入ると、以後19世紀半ばまでパンジャブ地方はシク教徒により統治されました。後述するシク戦争を経て、1849年イギリスによるパンジャブ併合以降、シク教徒はイギリスの傭兵として重用されるようになりました。

### [第1回シク戦争]

1845年－46年

1845年12月シク軍がイギリス領内に侵入しました。併合の機会をねらっていた東インド会社は、直ちに宣戦を布告しましたが、シク軍は3回の戦闘に勝ちました。しかし、決定的瞬間にシク領主達が裏切ってイギリス軍に走ったので、シク軍は敗れました。イギリス軍は東パンジャブを併合し、西パンジャブに駐屯権を獲得しました。

### [第2回シク戦争]

1848年－49年

イギリスの植民地化があからさまになるにつれて、住民の不満は高まり、反英武装蜂起となりました。シク軍はイギリス軍を苦戦においやりましたが、再び有力領主に裏切りが出て鎮圧されました。1849年3月、イギリスは全パンジャブの併合を宣言しました。以上の2回に亘るシク戦争が1857年から1859年のインド大反乱に繋がり、ついには1877年1月1日にインド帝国が成立してしまい、ヴィクトリア女王がインド皇帝に就任したのであります。

1947年のインド・パキスタン分離独立によりパンジャブ地方は分断され、パキスタン領となりました。パンジャブから、インド領側の多くのシク教徒が移住を余儀なくされました。その後シク教政党や活動家は、州の再編成を要求し、1965年には、シク教徒が約6割を占めるパンジ

ヤービー語圏のパンジャブ州と、ヒンディー語圏のパリヤナ州に分けられました。

2. グランドワラ (Gurdwara) と呼ばれるシク教寺院は、シク教徒が集まって礼拝したり、その他の行事を行うところであり、ここで注目すべきは礼拝のあとに会員に供される食事は重要な意味をもっています。ヒンドゥー教社会においては、調理や食事についてカースト制度による多くの規制があります。この為あるカーストに属する人が別のカーストに属する人たちと食事をするのを禁じられています。これに対してシク教では、礼拝が終ると、集まった会衆全員に同じ食事が出され、いっしょに食事をする事によって万人の平等性が強調されているのです。
3. 黄金寺院はインド北部のパンジャブ州アムリツターにある大規模な寺院総合施設で、シク教の総本山となっております。わざわざ取り上げた大きな理由は、この黄金寺院の建立に際して、礎石を据えたのが、イスラーム教神秘主義の聖人として知られるミアン・ミールだったと言うことであります。これは、シク教徒達が、開祖グル・ナークの時代から、他の宗教に対して、常に敬意を払っていたことを示すものであります。

#### 第13. 石窟寺院 (世界遺産)

インドには様々な石窟寺院があります。

1. 石窟寺院とは、岩壁をくり抜いた洞窟のなかにある寺院のことで、インドのマハーラーシュトラ州の村エローラには、34の石窟があり、12が仏教、17がヒンドゥー教、5がジャイナ教の寺院であります。特に有名なのは、ヒンドゥー教のカイラーサナータ寺院で、アテネのパルテノン神殿の2倍あり、全部がひとつの岩からくりぬいて作られています。完成までに100年かかったそうです。勿論、世界遺産に指定されています。
2. エローラの近くの川沿いの断崖には、30の洞窟からなる仏教のアジャンターの石窟があり、紀元前後から7世紀頃に建造されたもので、ここは壁画で名高いところです。世界遺産となっています。
3. ムンバイ湾のエレファンタ島には7つのヒンドゥー教の石窟があります。ここも世界遺産です。

#### 第14. ヒンドゥー教系新宗教

欧米でNRM (new religious movement) の語を使う場合、主に1950年代後半以降に展開し、1960年代から1970年代前半にかけて、大きく活動した宗教団体の事を言います。その対象は、キリスト教のプロテスタントとカトリック、及びユダヤ教といった伝統的な宗教文化と異った信念や実践を持つものであります。具体的には、文鮮明の統一教会 (Unification Church) が一例でしょう。当時、アメリカでは、既存の社会的価値や規範に異議を申し立てる対抗文化が高まりを見せており、こうしたなかでアジア系の宗教への関心が高く、なかでもインド文化圏から生まれたヒンドゥー教の新宗教が大きな発展を遂げました。

##### 1. サティヤ・サイ・ババ協会

(Sathya Sai Baba)

サティヤナーヤーナ・ラジュイン (1926年-2011年) は、若い頃から多数の奇跡を起こしたとされてきました。彼は、14才のときサソリに刺されたおりトランス状態に陥りましたが、目覚めたとき、彼は



自分が導師シルディ・サイ・ババの生まれ変わりであると述べ、以降サティヤ・サイ・ババと名乗りました。空中から物を取り出したり、空中に舞ったりする奇跡（勿論、トリックであるとの説もある）を行ったりして、1950年代から信者が集まり出しました。サイ・ババの信者は南インドに多いのですが、現在、世界で1,000万人近くの信者がおり、彼の信者が運営するセンターは、世界に100カ国以上点在すると言われていています。サイ・ババは、「一つの人類、一つの宗教、一つの神」を掲げ、彼は唯一の真実の神を信じることを不可欠としましたが、その神はイスラーム教徒にとってのアラー、ヒンドゥー教徒にとってのクリシュナやヴィシュヌなどの多くの異なる名前と呼ばれるにすぎないとしております。従って、自ら慣れ親しんだ宗教の伝統を尊重し、他の宗教への寛容の精神を説いています。

1991年には世界でも最高水準の設備を誇る専門病院を建設しました。その他西洋近代科学を研究する6ヶ所の大学を始めとし、多数の初等・中等教育プログラム、ヴェーダの復興、きれいな飲料水の確保等の事業も行いました。

サイ・ババについては、色々と批判はあるものの、2011年の葬儀は国葬として執り行われました。インドの大統領・首相以外で国葬が執り行われたのは他にマザー・テレサのみだそうです。

以下 Wikipedia より引用します。サイ・ババがよく説く教えは、次の4つがあります。

- (1) 「カーストはただ1つ、それは 人類というカースト。宗教はただ1つ、それは愛という宗教。言語はただ1つ、それは心という言語。神はただ1つ、そして、神は遍在」
- (2) 「すべての人を愛し、すべての 人に奉仕せよ」 (Love All, Serve All)
- (3) 「つねに助け、決して傷つけて はならない」 (アヒンサー (非暴力) の思想)
- (4) 「愛 (プレーマ) は私の姿、真実 (サティヤ) は私の息吹、至福 (アーナンダ) は私の糧、私の人生が私のメッセージ、拡大が私の人生、愛に理由はなく、時を選ばず、生じることも滅びることもない」

## 2. クリシュナ意識国際協会

International Society for Krishna Consciousness 略称: ISKCON (イスコン) は、通例「ハレー・クリシュナ運動」として知られ、クリシュナの生まれ変わりとしてされた16世紀のベンガル出身の神秘家チャイタンニヤから着想を得ています。インド人ブラブバータ (1896年-1977年) が、1965年にNew Yorkで活動を開始したとの事ですが、この運動はドラッグによる意識変容の試みや実験的なコミュニオン生活に幻滅した若者に魅力的な存在となりました。筆者は、サフラン色の衣を身につけたハレー・クリシュナの集団をアメリカだけでなく東南アジアで良く見掛けたことがあります。ヒッピーの集団と違って、清潔な感じのする集団でありました。彼等は、暴力、賭け事、飲酒、非倫理的性関係を絶って生活しています。著名な賛同者としては、詩人のアレス・キンズバーグやビートルズのメンバーだったジョージ・ハリソンがあげられます。ま

たアップルのかつてのCEOであった故スティーブ・ジョブズ氏も、若かりし頃、食うに困り、ハレー・クリシュナ教団でタダ飯を喰ったそうであります。

現在、世界中に100万人の信者が おります。

### 3. ラジニーシ運動

バグワン・シュリ・ラジニーシ

(Bhagwan Shree Rajneesh、和尚/オショウ ; Osho) (1931年-1990年) は、中央インドにジャイナ教の商人の長男として生まれました。21才の時、人間意識の究極の段階に達して光明(悟り)を得たといえます。その後、一時は大学の教授となりますが、大学を辞して、インド各地で講演を始めました。彼は、全ての組織宗教の形骸化を痛烈に攻撃し、また宗教的戒律は、人間を鋳型にはめてしまうものだと言いました。

1981年になると運動の本拠地は、アメリカに移転し、オレゴン州に約2000人の弟子で共同体が設立されました。しかし、組織幹部が近隣にサルモネラ菌を散布したとか、ラジニーシ自身も移民法違反で逮捕され、国外追放となりました。1987年には、インド・プネーに運動の本拠地が復帰されました。

ラジニーシは、1987年に和尚と呼ばれる様になり、1990年に心臓発作で亡くなりました。

現在、賛同者は世界中に約3万人、日本に約3,000人いると言われております。

### 4. シャイヴァ・シッダーンタ教会

アメリカ人指導者サットグル・シヴァヤ・スプラムニヤスワミ、通称グルデヴァによって設立されました。グルデヴァがアメリカにもたらしたヒンドゥー教は、スリランカのシヴァ派の影響を受けたもので、解脱、共同体への奉仕、シヴァへの尊崇、ヨーガ、瞑想を心がけ、菜食主義、非暴力主義を実践しています。

グルデヴァは1986年ニューデリーで開催された世界宗教会議で、ヒンドゥー教のインド国外への普及に尽力したと讃えられました。信者数は75万人と言われております。

### 5. 超越瞑想 (transcendental meditation TM)

インドの物理学者で教師マハリシ・マヘーシュ・ヨギ (1918-2008) が開発した瞑想のテクニックのことを言います。1960年代、この運動は、ビートルズなどの有名人を魅了しました。TMの教師たちはTMは宗教ではなく、瞑想の実践であると言っています。創設以来世界中で500万人以上の受講者がおり、この瞑想法は、1日2回、朝と夕方に15分から20分間、個々人にふさわしいマントラ(サンスクリット語のことば)を心のなかで静かに唱えるものだそうです。

TMが1977年までアメリカのニュージャージー州の公立学校で教えられたことがあります。しかし、TMが純粋な科学的手法なのか、それとも宗教か問題となり、裁判所は、TMは宗教であり、公立学校での実践は政教分離の憲法に違反するとの判決が出ています。

### 6. ラーマクリシュナ・ミッションと高弟ヴィヴェーカーナンダの思想

(1) ラーマクリシュナ・ミッションは、師ラーマクリシュナ(183

- 6-1886)の教えを具現化するために、弟子ヴィヴェーカーナンダ(1862-1902)によって1897年に創設されたミッションであります。ラーマクリシュナは、世界の異なる宗教の目的は、源は同じであり、すべての宗教は知識や祝福によって体験する同じ永遠で不可分の存在へ至る道であると主張しました。ラーマクリシュナは教養あるベンガル人をひきつけ、その中にヴィヴェーカーナンダがおり、彼は行者となってスワミー(師)の称号を得ました。
- (2) ヴィヴェーカーナンダは1893年にシカゴで開催された第1回万国宗教会議に参加し、ヒンドゥー教をインド国外に広め「世界宗教」のひとつに発展させることに大きく貢献しました。
- (3) ヴィヴェーカーナンダの思想
- ヴィヴェーカーナンダの思想的貢献は9世紀の思想家シャンカラの不二一元論の19世紀の社会的・思想的状況に合わせて再解釈し応用したとのことでもあります。シャンカラは、現象の世界が色や形などの属性に満ちているのに対して、究極の存在である梵(ぼん)は無属性であると説きました。ヴィヴェーカーナンダは、この説を応用して、個別の宗教は究極の存在である梵へたどりつく異った道に過ぎず、おのおのの宗教は、差異を乗り越えてお互いを受け入れるべきであるという寛容的態度(tolerance)を説きました。
- 不二一元論における梵我一如の思想に基づき、ヴィヴェーカーナンダは、「貧しくも惨めな者たちは、われわれに救いをもたらす、彼らは、われわれが主にお仕えできるよう、主が病人、狂人、癩病者、罪人の姿でいらっしゃるのだ」と説きました(丸善発行、インド文化事典、227ページ18行目以下)。キリスト教における聖フランシスコを彷彿させるものであり、ヴェーダーンタ思想に立脚する梵我一如こそがキリスト教における隣人愛を形而上学的に基礎付ける思想であると主張しました(インド文化事典、同所)。
- 彼はまた魂の神聖さを唱え、悟りの道として①カルマ(行為)、②ジャニヤーナ(知識)、③バクティ(信愛)、④ラージャ(王道、心の統御)の四つのヨーガを説きました。
- (4) ヴィヴェーカーナンダは1895年にニューヨークにヴェーダーンタ協会を開設しました。日本での支部は、神奈川県逗子市の「日本ヴェーダーンタ協会」です。
- (5) 1897年には、ヴィヴェーカーナンダのアイルランド人女性の弟子によって、女学校が設立されました。
- (6) これらの貢献に対して、インド政府は、ラーマクリシュナ・ミッションに対し、1998年、ガンディー平和賞(Gandhi Peace Prize)を授与しました。
- (7) ラーマクリシュナ・ミッションは、近代ヒンドゥー教を代表する国際的な団体の一つです。

以上  
2021年1月27日脱稿

【癒しの音楽コンサート】

2021年9月25日(土曜日)14時開演

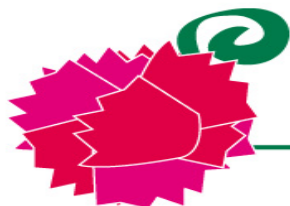
開場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール

出演：水野佐知香(Vn)、荒井章乃(Vn)、三宅美子(Hp)、崎元讓(ハーモニカ)

【癒しの音楽コンサート】

2021年12月18日(土曜日)14時開演

会場：新宿区立 牛込笹笥区民ホール



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2021年8月13日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫

\*純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>